

全学モジュール科目案内

テーマ名	13-21 ことばと文化		
テーマ責任者	橋本 健夫	責任部局	大学教育機能開発センター
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
趣旨	<p>人は常に考え、行動している。これが人を作り、社会そして文化を形成してきた。この文化の形成にあたっては、考えを何らかの形で伝えること、即ち、コミュニケーションが不可欠となる。また、コミュニケーションには、ことばが欠かせない。つまり、文化とことばは非常に密接な関係にあることになる。</p> <p>本モジュールにおいては、ことばに焦点を当て、文化を理解することにチャレンジしたい。また、ことばは用いられ方によって伝える力も変化する。この魅力にも迫りたい。さらに、それぞれの文化で用いられることばを理解することによって、多文化理解の道を拓きたい。そして、適切なことばを用いてのコミュニケーション能力の向上につなげたい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを支えることばの意義を理解することができる。</li> <li>・ことばの持つ力について理解することができる。</li> <li>・ことばの多様性を理解することができる。</li> <li>・ことばの持つ内面性について理解することができる。</li> <li>・ことばを通してそれぞれの文化を理解することができる。</li> <li>・多様なことばを使って適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・脳とことばの関係を理解することができる。</li> <li>・課題に対して積極的に取り組む態度が形成される。</li> </ul>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>ことばは我々の生活でなくてはならないものです。しかし、ことばについて深く考えることは少なかつたのではないのでしょうか。ここで、ことばを学び直し、ことばの大切さを再認識するとともにコミュニケーション能力の向上を図りましょう。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(Ⅰa) マスメディアと表現	橋本 健夫 高橋 信夫 関口 達夫	ことばや映像を活用して社会に発信する新聞やテレビを取り上げ、その中でのことばの使われ方、映像の工夫などを理解するとともに、それらを批判的に受け取る態度形成の重要性等を認識する。 ※ 授業効果を高めるため、土曜日と日曜日を活用することもあります。	新聞、テレビ、記事、報道、マスメディア
	(Ⅰb) ジェンダーとことば	植木 とみ子	社会において男性と女性の関係はどうあるべきなのか。また、歴史的に培われてきた男性観、女性観をどのように現代化していくのかなど、社会における男性と女性の役割について、ことばを通して考える。	ジェンダー、男性観、女性観
	(Ⅰc) 心とことば	内野 成美	ことばは人の心と強く結びついている。心とことばの関係を、臨床事例を通して理解する。さらにカウンセラーの役割を認識し、社会での意義を理解する。	カウンセラー、心理相談、臨床心理士
モジュールⅡ	(Ⅱa) 数と表現	平岡 賢治	数は文化の重要な構成要素であることを、その歴史等を通じて理解する。また、数学的な考え方は多様であり、生活の様々な場面で活用されていることを学ぶ。	数の起源、数の活用、数と生活
	(Ⅱb) 音楽と表現	西田 治	音楽で用いられることばを理解するとともに表現方法を学ぶ。また、心や情景を的確に表す音楽の素晴らしさを認識する。	音楽、生活とリズム、ハーモニー
	(Ⅱc) 多文化理解とことば	橋本 健夫 劉 卿美 楊 暁安 ベー・シュウキー	日本の隣国である中国、韓国、マレーシアの文化を、ことばを通して理解する。また、それぞれの違いを認識しながら、それぞれが持つ素晴らしさに気付く。これによって、多文化理解能力の向上を図る。	多文化理解能力、中国、韓国、マレーシア
	(Ⅱd) 文字とことば	鈴木 慶子	日本のことばと文字の歴史を理解するとともに、表現方法とコミュニケーションの関係を、文字を書く体験を通して認識	日本の文字、書法、コミュ

			する。	ニケーション
(IIe) 脳とことば	橋本 健夫 橋本 優花里		ことばが脳で制御されていることを臨床の事例から理解する。また、脳損傷が与える影響を知るとともに、その機能回復を学ぶ。 ※ 集中講義の形態をとります。	脳、ことば、 機能回復
(II f) ICT とことば	福田 正弘 全 炳徳		IT機器を制御することばを理解するとともに、ITを活用したコミュニケーションの重要性を学ぶ。また、IT 機器の操作を通して、生活を豊かにするIT活用法を学ぶ。さらにIT活用の倫理も身に付ける。	IT、IT言葉、I T倫理

全学モジュールの目 標キーワード、およ び授業編成の視点と の対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	① 自主的 探究	② 批判的 思考	③ 自己表 現	④ 行動力	⑤ 日本語 コミュニ ケーション 力	⑥ 英語 コミュニ ケーション 力	⑦ 基盤的 知識	⑧ 環境の 意義	⑨ 多様性 の意義	⑩ 社会貢 献意欲	⑪ 学問を 尊敬す る態度	⑫ 自己成 長志向	⑬ 相互啓 発志向	A 哲学的 な切り口	B 歴史・ 略史を 扱う	C 現代 的な話 題を取 り入れ る	D アク ティブ ラーニ ングの 活用
(I a) マスメディアと表現	◎	◎	○		◎		○	○	○			○	◎	○		○	◎
(I b) ジェンダーとことば	◎	◎	○				○		◎	○	◎	◎	○	○	○	○	
(I c) 心とことば			○	○	○		○	○	◎	○	◎	○	○	○			○
(II a) 数と表現	○	○	○	○			◎				◎			◎	◎		◎
(II b) 音楽と表現	○		◎	◎			○	○	○	○		◎	◎			○	◎
(II c) 多文化理解とことば	◎	○	○	○		○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎		◎
(II d) 文字とことば	◎		◎	○	◎		○		○		○	○	○	○	○	○	◎
(II e) 脳とことば	○	○			○		◎		○	◎	○	○	○			◎	○
(II f) ICT とことば	◎	◎	○	○			◎				○	○	○			○	◎
◎(特に重視)の数	5	3	2	1	2	0	3	1	3	1	3	2	2	1	2	1	6
○(重視)の数	3	3	6	5	2	1	6	3	4	4	4	6	6	5	2	5	2

※工学部・水産学部に  
係る JABEE 項目